

# ダイワ先進国リートα

## 為替ヘッジあり (毎月分配型)

## 為替ヘッジなし (毎月分配型)

&lt;5733&gt; &lt;5734&gt;

為替ヘッジあり(毎月分配型)追加型投信/内外/不動産投信(リート)  
日経新聞掲載名: 先リートあり  
為替ヘッジなし(毎月分配型)追加型投信/内外/不動産投信(リート)  
日経新聞掲載名: 先リートなし

第102期	2021年1月13日決算	第105期	2021年4月13日決算
第103期	2021年2月15日決算	第106期	2021年5月13日決算
第104期	2021年3月15日決算	第107期	2021年6月14日決算

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、リート（不動産投資信託）への投資とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築し、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

### 為替ヘッジあり(毎月分配型)

第107期末	基準価額	3,746円
	純資産総額	2,030百万円
第102期～第107期	騰落率	15.1%
	分配金合計	300円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

### 為替ヘッジなし(毎月分配型)

第107期末	基準価額	4,320円
	純資産総額	968百万円
第102期～第107期	騰落率	21.6%
	分配金合計	300円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

## 大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社  
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

運用報告書に関するお問い合わせ先



コールセンター 受付時間 9:00～17:00 (営業日のみ)  
0120-106212

お客様の口座内容に関するご照会は、  
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。

■当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の手順で閲覧、ダウンロードいただけます。「運用報告書(全体版)」は受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

◇SKU0573320210614◇

「運用報告書(全体版)」の閲覧・ダウンロード方法

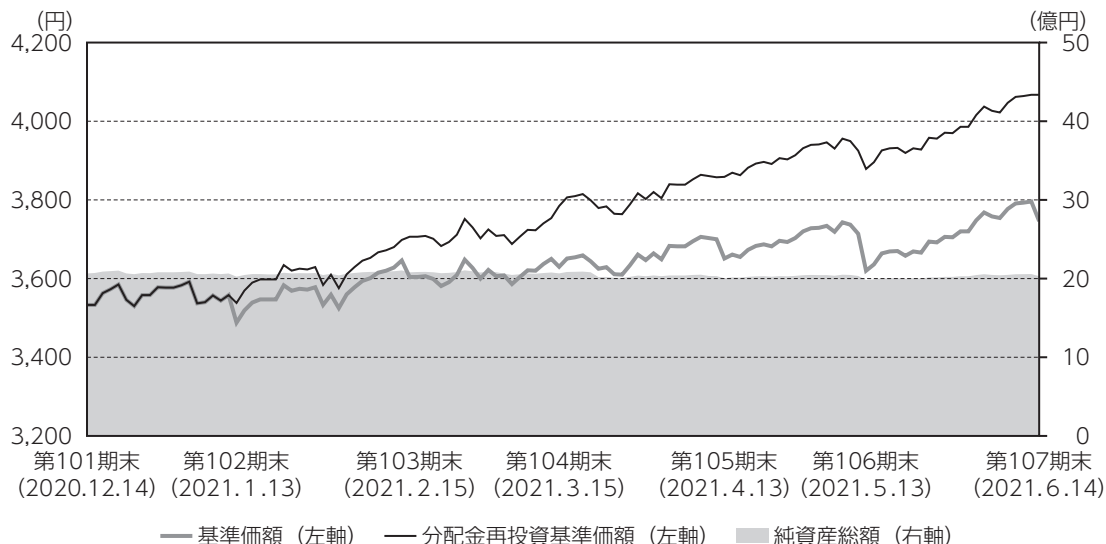
上記のURLにアクセス → ファンド検索欄にファンド名を入力 → リストから当ファンドを選択 → 運用報告書(全体版)を選択

為替ヘッジあり (毎月分配型)



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



\* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

\* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

#### 基準価額・騰落率

第102期首：3,533円

第107期末：3,746円（既払分配金300円）

騰落率：15.1%（分配金再投資ベース）

#### 基準価額の主な変動要因

リートα・ファンド（円ヘッジクラス）の上昇がプラスに寄与し、基準価額は上昇しました。リートα・ファンド（円ヘッジクラス）については、先進国のリートへの投資とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築した結果、先進国リートが上昇したことがプラスに寄与し、上昇しました。しかし、オプション取引はマイナス要因となりました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

※リートα・ファンド（円ヘッジクラス）：クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅱ-グローバル・リートα・ファンド（円ヘッジクラス）

## 1 万口当りの費用の明細

項 目	第102期～第107期 (2020.12.15～2021.6.14)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	24円	0.672%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は3,637円です。
(投 信 会 社)	(8)	(0.218)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(16)	(0.438)	販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.016)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.003	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	25	0.675	

(注1) 当作成期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

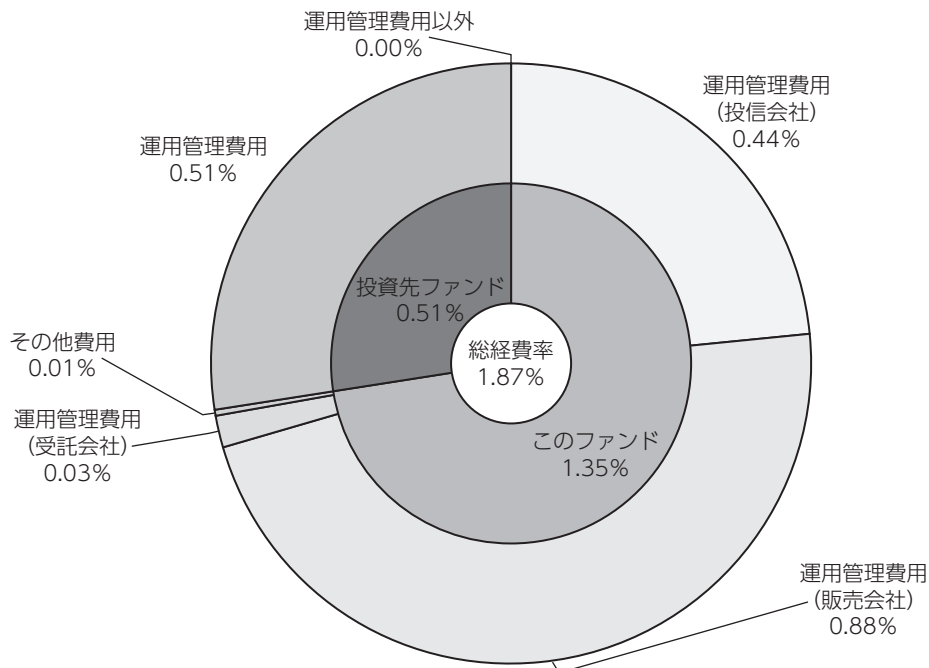
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

## 参考情報

### ■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.87%です。



総経費率 (①+②+③)	1.87%
①このファンドの費用の比率	1.35%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.51%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.00%

(注1) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

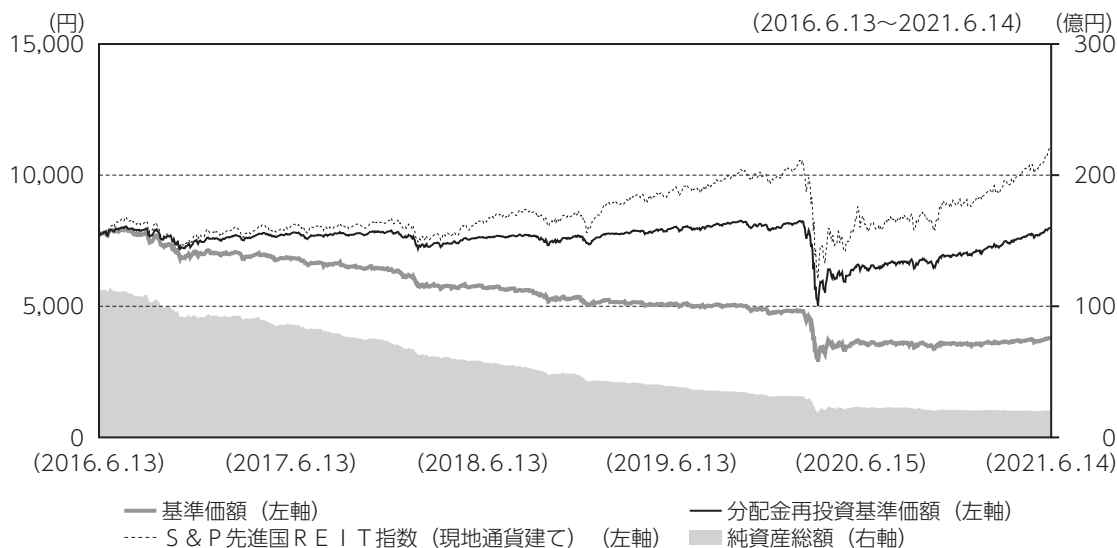
(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 参考指数は、2016年6月13日の基準価額をもとに指数化したものです。

\*参考指数はS & P先進国REIT指数 (現地通貨建て) です。

	2016年6月13日 期初	2017年6月13日 決算日	2018年6月13日 決算日	2019年6月13日 決算日	2020年6月15日 決算日	2021年6月14日 決算日
基準価額 (円)	7,784	6,797	5,718	5,059	3,575	3,746
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	960	960	870	600	600
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	△0.2	△1.7	4.3	△19.0	23.7
S & P先進国REIT指数 (現地通貨建て) 騰落率 (%)	—	3.5	2.8	13.2	△12.2	34.3
純資産総額 (百万円)	11,264	8,584	5,717	3,881	2,278	2,030

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) 参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しております。

(注3) S & P先進国REIT指数 (現地通貨建て) 騰落率は、S & P先進国REIT指数 (現地通貨建て) の原データをもとに大和アセットマネジメントが計算したものです。S & P先進国REIT指数 (現地通貨建て) の所有権およびその他一切の権利は、S&P Dow Jones Indices LLCが有しています。S&P Dow Jones Indices LLCは、同指数の算出にかかる誤謬等に関し、いかなる者に対しても責任を負うものではありません。

(注4) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注5) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

## 投資環境について

(2020.12.15~2021.6.14)

### ■先進国リート市況

先進国リート市況は上昇しました。

先進国リート市況は、当作成期首より金融政策や財政刺激策に加え、米国を中心に新型コロナウイルスのワクチン接種が進展して経済活動の正常化が進んだことが下支えとなり、上昇基調となりました。欧州などの一部地域で、感染再拡大によって再び行動制限が導入されたほか、当作成期の後半には米国長期金利が上昇して市況が弱含む局面もありましたが、当作成期末にかけては、米国長期金利が落ち着きを見せたことなどを受け、再び上昇しました。

国別の現地通貨建ての騰落率を見ると、オランダや米国などが相対的に堅調だった一方で、シンガポールやドイツの上昇率は小幅にとどまりました。現地通貨建てのセクター別では、住宅や商業施設などが大きく上昇した一方で、各種不動産やヘルスケアなどは上昇率が小幅にとどまりました。

### ■短期金利市況

日本では、日銀が「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を継続し、短期金利は低位で推移しました。一方、F R B (米国連邦準備制度理事会) は、政策金利の誘導目標レンジを0.00~0.25%で据え置きました。

## 前作成期末における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

引き続き、リートα・ファンド (円ヘッジクラス) とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資します。また、リートα・ファンド (円ヘッジクラス) への投資割合を高位に維持することを基本とします。

### ■リートα・ファンド (円ヘッジクラス)

新型コロナウイルスの感染拡大と行動規制の強化は冬の間も続くと思われますが、その後はワクチンの実用化と主要各国の財政出動による経済対策によって、力強い経済成長を予想しています。産業施設などのセクターは新型コロナウイルスの影響下においても構造的な成長が期待されます。ただし、オフィスなどの一部セクターでは、行動規制強化を受けて賃料の減免や空室率の上昇が見られており、引き続き注意が必要です。

個別銘柄ごとに、価格の方向性に基づき、保有株数の一部または全部にかかるコール・オプションを売却することでカバードコール戦略を構築します。

為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

### ■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

## ポートフォリオについて

(2020.12.15~2021.6.14)

### ■当ファンド

リートα・ファンド (円ヘッジクラス) とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資しました。リートα・ファンド (円ヘッジクラス) への投資割合を高位に維持しました。

### ■リートα・ファンド (円ヘッジクラス)

安定的な配当が見込めて下値抵抗力がある相対的に割安な銘柄を選定し、リーートのバリュエーションやオプション取引価格等を考慮して、リートポートフォリオを構築しました。現物リートポートフォリオ部分については、セクター別で見ると、参考指数であるS & P先進国REIT指数に対して商業施設やホテル/リゾートのウエートを増やしてオーバーウエートとし、産業施設や特殊用途施設などのウエートを引き下げてアンダーウエートとしました。国別で見ると、堅調なファンダメンタルズと安定した配当利回りの見通しを背景に米国やカナダなどのウエートを引き上げ、シンガポールやオーストラリアなどのウエートを引き下げました。

個別銘柄ごとに、価格の方向性に基づき、保有株数の一部または全部にかかるコール・オプションを売却することでカバードコール戦略を構築しました。

為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いました。

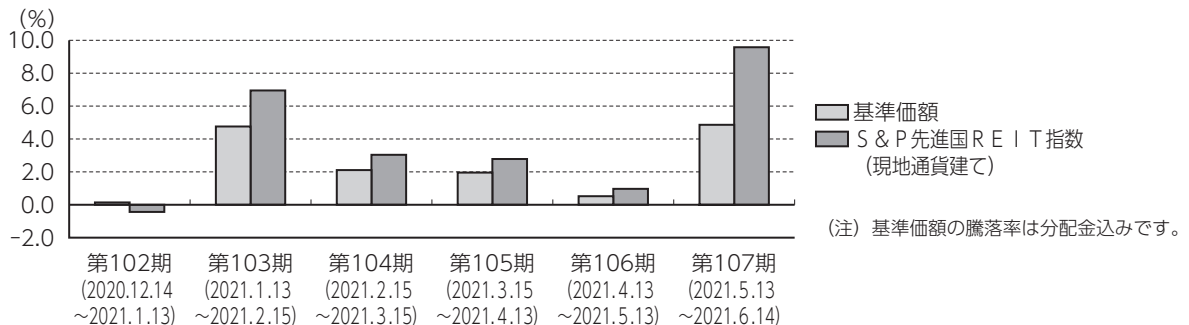
### ■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。当ファンドはカバードコール戦略を構築していますので、オプション取引要因は参考指数との差異の要因に含まれます。



## 分配金について

当作成期の1万口当り分配金(税込み)は下記「分配原資の内訳(1万口当り)」の「当期分配金(税込み)」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程(1万口当り)」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■分配原資の内訳(1万口当り)

項 目	第102期	第103期	第104期	第105期	第106期	第107期
	2020年12月15日 ～2021年1月13日	2021年1月14日 ～2021年2月15日	2021年2月16日 ～2021年3月15日	2021年3月16日 ～2021年4月13日	2021年4月14日 ～2021年5月13日	2021年5月14日 ～2021年6月14日
<b>当期分配金(税込み)(円)</b>	<b>50</b>	<b>50</b>	<b>50</b>	<b>50</b>	<b>50</b>	<b>50</b>
対基準価額比率(%)	1.41	1.37	1.36	1.35	1.36	1.32
当期の収益(円)	43	47	43	46	45	46
当期の収益以外(円)	6	2	6	3	4	3
翌期繰越分配対象額(円)	776	773	767	763	759	755

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

### ■収益分配金の計算過程(1万口当り)

項 目	第102期	第103期	第104期	第105期	第106期	第107期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓ 43.94円	✓ 47.31円	✓ 43.95円	✓ 46.38円	✓ 45.73円	✓ 46.13円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(c) 収益調整金	756.44	756.53	756.61	756.64	756.66	✓ 756.69
(d) 分配準備積立金	✓ 25.77	✓ 19.65	✓ 16.90	✓ 10.83	✓ 7.19	✓ 2.92
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	826.16	823.50	817.47	813.86	809.60	805.74
(f) 分配金	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	776.16	773.50	767.47	763.86	759.60	755.74

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。





## 今後の運用方針

### ■当ファンド

引き続き、リートα・ファンド（円ヘッジクラス）とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資します。また、リートα・ファンド（円ヘッジクラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

### ■リートα・ファンド（円ヘッジクラス）

米国の大規模な財政政策のほか、世界的な新型コロナウイルスワクチンの普及などを受け、米国だけでなく欧州などの主要先進国でも景気回復が見られ始めたことが、今後も先進国リート市場を下支えするとみています。一方で、変異型の感染拡大や早期の金融緩和縮小などがリスク材料として挙げられます。また、一部のセクターでは、感染対策の行動制限が解除されつつある中で、賃料の減免や引き下げが依然として見られており、注意が必要です。

個別銘柄ごとに、価格の方向性に基づき、保有株数の一部または全部にかかるコール・オプションを売却することでカバードコール戦略を構築します。

為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

### ■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

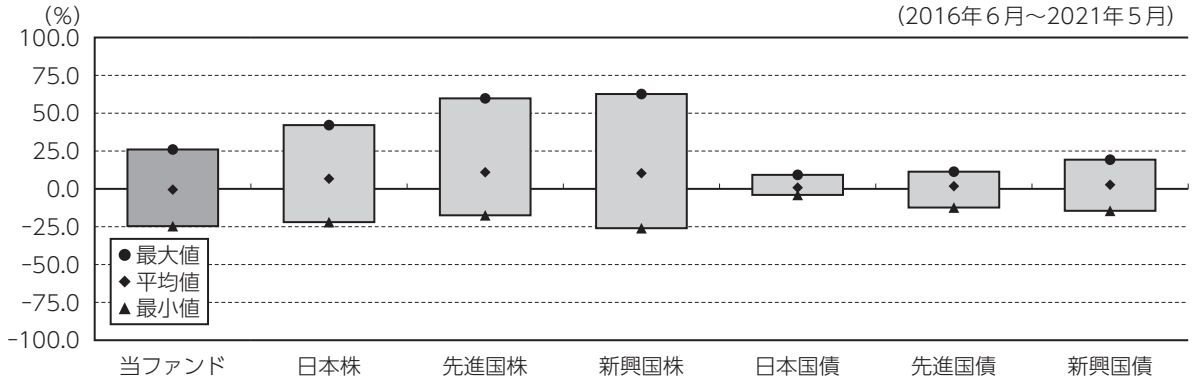


## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／不動産投信（リート）	
信託期間	約10年間（2012年6月27日～2022年6月13日）	
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	当ファンド	イ. ケイマン籍の外国投資信託「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅱ－グローバル・リートα・ファンド（円ヘッジクラス）」（以下「リートα・ファンド（円ヘッジクラス）」といいます。）の受益証券（円建） ロ. ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券
	ダイワ・マネースtock・マザーファンド	円建ての債券
当ファンドの運用方法	①主として、リートα・ファンド（円ヘッジクラス）の受益証券を通じて、リートへの投資とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築し、信託財産の成長をめざします。 ②当ファンドは、リートα・ファンド（円ヘッジクラス）とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態、リートα・ファンド（円ヘッジクラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。 ③リートα・ファンド（円ヘッジクラス）では、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないません。	
マザーファンドの運用方法	①円建ての債券を中心に投資し、安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。 ②円建資産への投資にあたっては、残存期間が1年未満、取得時においてA－2格相当以上の債券およびコマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。	
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、継続的な分配を行なうことを目標に、基準価額の水準を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。また、第1計算期末には、収益の分配は行ないません。	



## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	26.0	42.1	59.8	62.7	9.3	11.4	19.3
平均値	△0.5	6.7	11.0	10.3	0.8	1.8	2.7
最小値	△24.6	△22.0	△17.5	△26.0	△4.0	△12.3	△14.5

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

- ①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。
- ②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。
- ③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※上記の騰落率は直近月末から60カ月さかのぼった算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

※資産クラスについて

日本株……………東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株……………MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI国債

先進国債……………FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………JPMorgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバースファイド（円ベース）

※指数について

●TOPIXは東証が算出・公表し、指数値、商標など一切の権利は株式会社東証証券取引所が所有しています。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。●NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●JPMorgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバースファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。



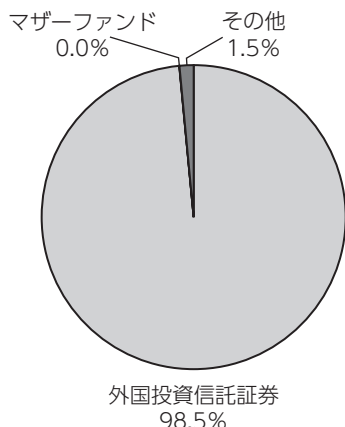
# ファンドデータ

## 当ファンドの組入資産の内容

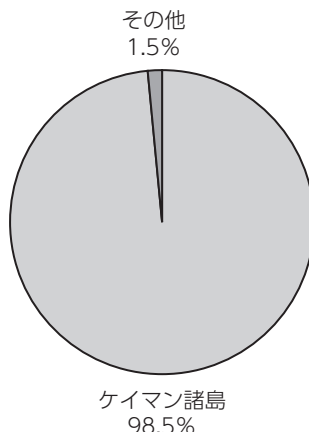
### 組入ファンド等

	比率
リートα・ファンド (円ヘッジクラス)	98.5%
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	0.0%
その他	1.5%

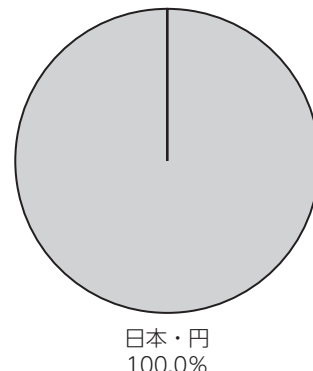
### 資産別配分



### 国別配分



### 通貨別配分



(注1) 上記データは2021年6月14日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

※当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行っています。次ページの「組入上位ファンドの概要」には、組入上位3ファンドまでのファンドの内容を掲載しています。

## 純資産等

項 目	第102期末	第103期末	第104期末	第105期末	第106期末	第107期末
	2021年1月13日	2021年2月15日	2021年3月15日	2021年4月13日	2021年5月13日	2021年6月14日
純資産総額	2,024,530,527円	2,079,311,970円	2,066,119,100円	2,004,641,182円	1,981,698,555円	2,030,898,287円
受益権総口数	5,803,944,858口	5,769,465,363口	5,692,396,892口	5,491,037,835口	5,475,033,599口	5,420,995,332口
1万口当り基準価額	3,488円	3,604円	3,630円	3,651円	3,620円	3,746円

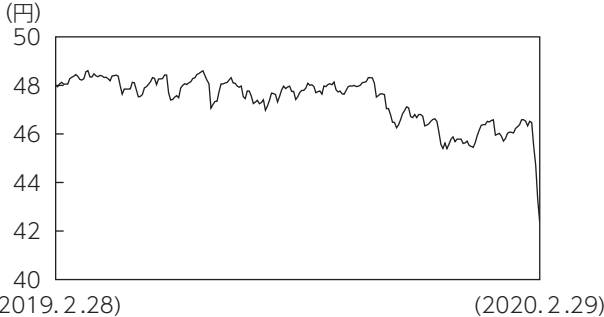
\* 当作成期間 (第102期～第107期) 中における追加設定元本額は114,056,206円、同解約元本額は538,478,761円です。

\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) でご覧いただけます。

## 組入上位ファンドの概要

### ◆クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト (ケイマン) II-グローバル・リートα・ファンド (円ヘッジクラス) (作成対象期間 2019年3月1日~2020年2月29日)

#### ■ 1口当り評価額の推移



(注) 1口当りの純資産は、分配金(税込み)を再投資したものとみなして計算しています。

#### ■ 1口当りの費用の明細

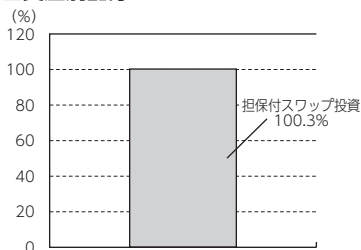
当ファンドの単位口数当りの費用のデータは取得できないため、記載しておりません。

#### ■ 組入上位銘柄

銘柄名	通貨	比率
GAMING AND LEISURE PROPERTIE	米ドル	4.1%
PROLOGIS INC	米ドル	4.0
OMEGA HEALTHCARE INVESTORS	米ドル	3.8
MID-AMERICA APARTMENT COMM	米ドル	3.6
EQUINIX INC	米ドル	3.6
MEDICAL PROPERTIES TRUST INC	米ドル	3.5
VICI PROPERTIES INC	米ドル	3.5
EQUITY LIFESTYLE PROPERTIES	米ドル	3.4
ALEXANDRIA REAL ESTATE EQUIT	米ドル	3.2
FOUR CORNERS PROPERTY TRUST	米ドル	3.1
組入銘柄数		58銘柄

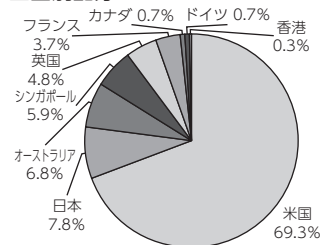
(注) 比率はリートのポートフォリオに対する比率です(※)。

#### ■ 資産別配分



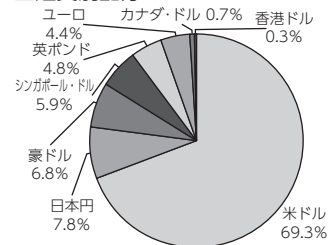
(注) 比率は純資産に対する比率です。

#### ■ 国別配分



(注) 比率はリートのポートフォリオに対する比率です(※)。

#### ■ 通貨別配分



(注1) 比率はリートのポートフォリオに対する比率です(※)。

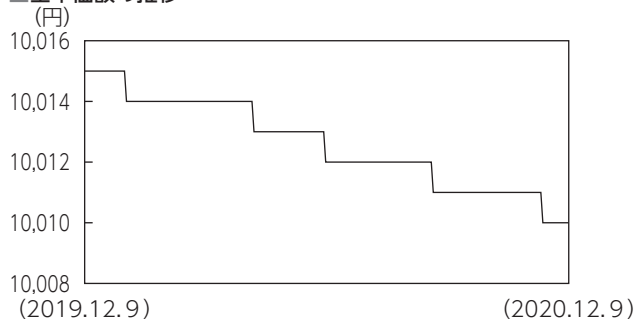
(注2) 為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行っています。

(※) 当外国投資信託では、直接リートへの投資やオプション取引を行わず、担保付スワップ取引を通じて、先進国のリートへの投資とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略の損益を享受します。上位10銘柄、国別配分、通貨別配分は2020/2/27現在のデータです。

\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)をご覧ください。

◆ダイワ・マネースtock・マザーファンド (作成対象期間 2019年12月10日～2020年12月9日)

■基準価額の推移



■1万口当りの費用の明細

項	目	
売買委託手数料		—円
有価証券取引税		—
その他費用 (その他)		0 (0)
合	計	0

■組入資産

2020年12月9日現在、有価証券等の組み入れはありません。

(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の作成対象期間のものです。

(注2) 1万口当りの費用の明細における費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。また、円未満を四捨五入してあります。

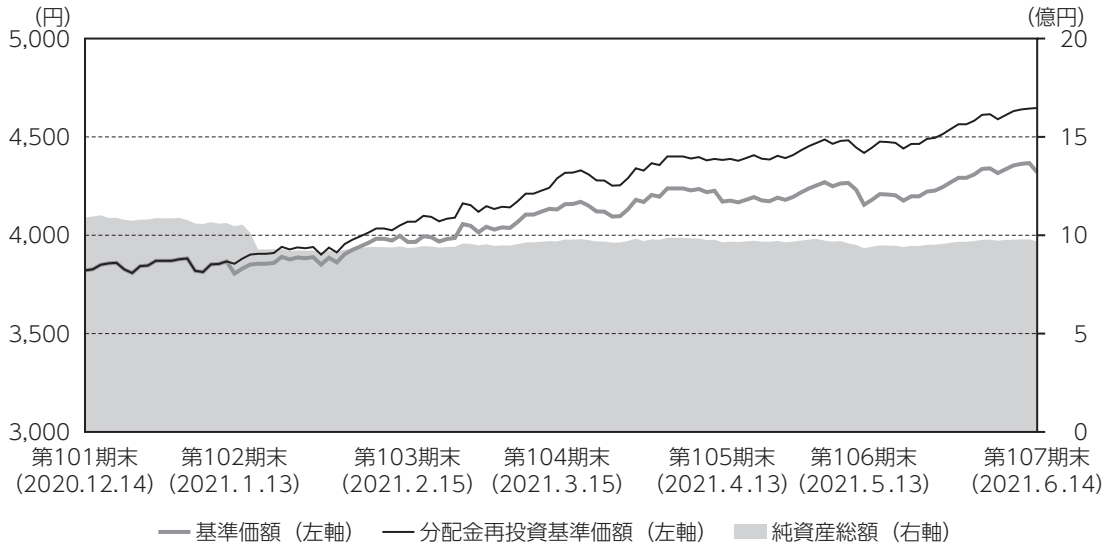
\*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)をご覧ください。

為替ヘッジなし (毎月分配型)



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



\* 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

\* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります (分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります)。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

#### 基準価額・騰落率

第102期首：3,821円

第107期末：4,320円 (既払分配金300円)

騰落率：21.6% (分配金再投資ベース)

#### 基準価額の主な変動要因

リートα・ファンド (ノンヘッジクラス) の上昇がプラスに寄与し、基準価額は上昇しました。リートα・ファンド (ノンヘッジクラス) については、先進国のリートへの投資とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築した結果、先進国リートが上昇したことや為替相場において円安が進んだことがプラスに寄与し、上昇しました。しかし、オプション取引はマイナス要因となりました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

※リートα・ファンド (ノンヘッジクラス) : クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト (ケイマン) II - グローバル・リートα・ファンド (ノンヘッジクラス)

## 1万口当りの費用の明細

項 目	第102期～第107期 (2020.12.15～2021.6.14)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	27円	0.672%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は4,076円です。
(投 信 会 社)	(9)	(0.219)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(18)	(0.438)	販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.016)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.003	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	28	0.676	

(注1) 当作成期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

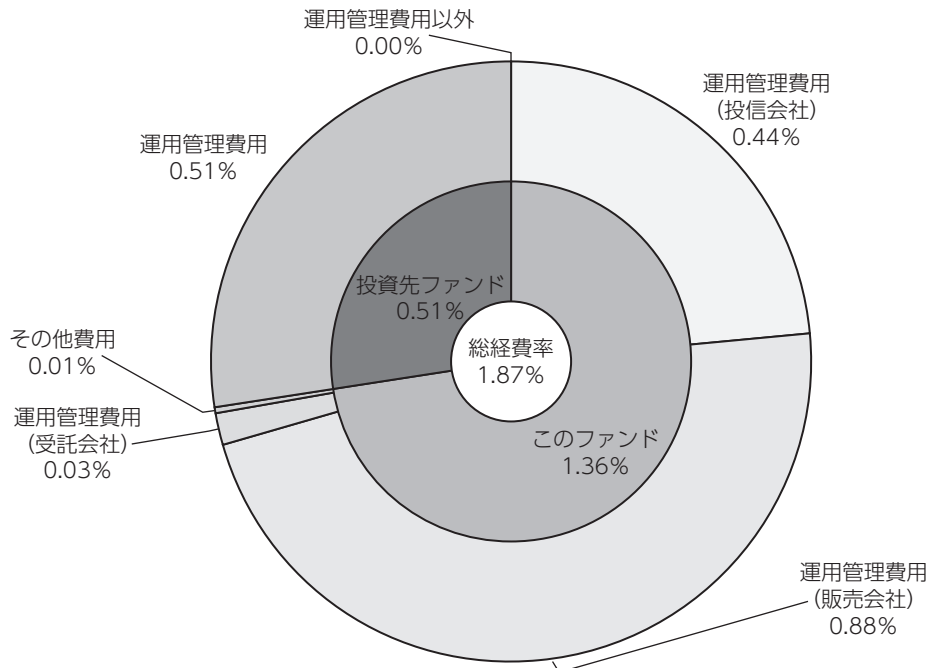
(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。



参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.87%です。



総経費率 (①+②+③)	1.87%
①このファンドの費用の比率	1.36%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.51%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.00%

(注1) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

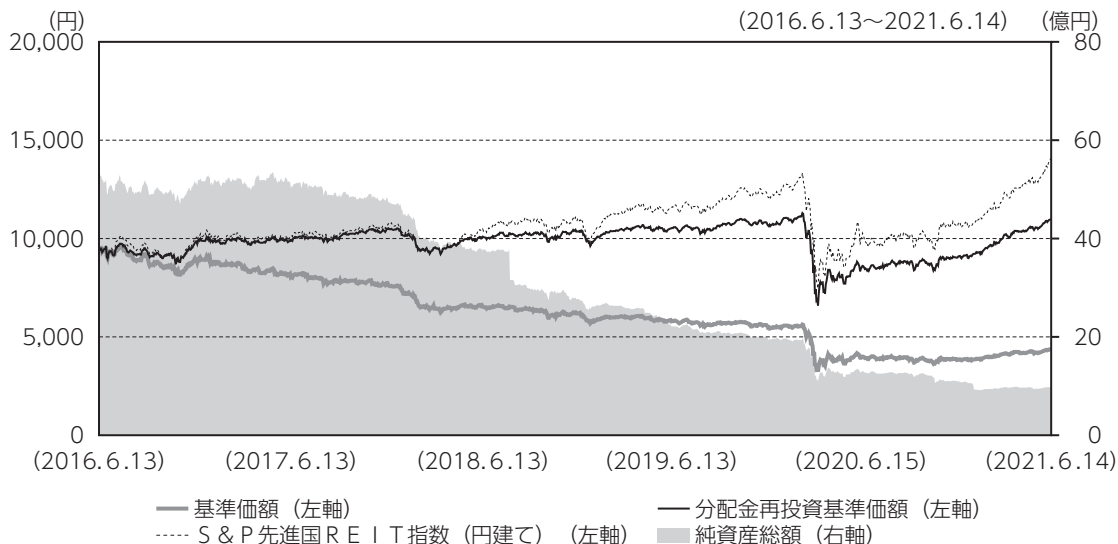
(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 参考指数は、2016年6月13日の基準価額をもとに指数化したものです。

\*参考指数はS & P先進国REIT指数 (円建て) です。

		2016年6月13日 期初	2017年6月13日 決算日	2018年6月13日 決算日	2019年6月13日 決算日	2020年6月15日 決算日	2021年6月14日 決算日
基準価額	(円)	9,568	8,028	6,534	5,790	3,934	4,320
期間分配金合計 (税込み)	(円)	—	1,800	1,650	990	840	660
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)		—	3.3	2.1	4.1	△19.4	29.6
S & P先進国REIT指数 (円建て) 騰落率 (%)		—	5.4	4.0	10.2	△13.4	40.0
純資産総額	(百万円)	5,336	5,021	3,745	2,215	1,277	968

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) 参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しております。

(注3) S & P先進国REIT指数 (円建て) 騰落率は、S & P先進国REIT指数 (円建て) の原データをもとに大和アセットマネジメントが計算したものです。S & P先進国REIT指数 (円建て) の所有権およびその他一切の権利は、S&P Dow Jones Indices LLCが有しています。S&P Dow Jones Indices LLCは、同指数の算出にかかる誤謬等に関し、いかなる者に対しても責任を負うものではありません。

(注4) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注5) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は最近で知り得るデータを使用しております。

## 投資環境について

（2020.12.15～2021.6.14）

### ■先進国リート市況

先進国リート市況は上昇しました。

先進国リート市況は、当作成期首より金融政策や財政刺激策に加え、米国を中心に新型コロナウイルスのワクチン接種が進展して経済活動の正常化が進んだことが下支えとなり、上昇基調となりました。欧州などの一部地域で、感染再拡大によって再び行動制限が導入されたほか、当作成期の後半には米国長期金利が上昇して市況が弱含む局面もありましたが、当作成期末にかけては、米国長期金利が落ち着きを見せたことなどを受け、再び上昇しました。

国別の現地通貨建ての騰落率を見ると、オランダや米国などが相対的に堅調だった一方で、シンガポールやドイツの上昇率は小幅にとどまりました。現地通貨建てのセクター別では、住宅や商業施設などが大きく上昇した一方で、各種不動産やヘルスケアなどは上昇率が小幅にとどまりました。

### ■為替相場

対象通貨の為替相場は、米ドルの上昇（円安）などによりポートフォリオ全体としては対円で上昇しました。

米ドル円相場は、米国のバイデン新政権下での経済対策に対する期待や、新型コロナウイルスワクチンの順調な接種進展と経済活動正常化への期待などを背景に、米国長期金利が上昇したことにより、上昇しました。

## 前作成期末における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

引き続き、リートα・ファンド（ノンヘッジクラス）とダイワ・マネーストック・マザーファンドに投資します。また、リートα・ファンド（ノンヘッジクラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

### ■リートα・ファンド（ノンヘッジクラス）

新型コロナウイルスの感染拡大と行動規制の強化は冬の間も続くと思われますが、その後はワクチンの実用化と主要各国の財政出動による経済対策によって、力強い経済成長を予想しています。産業施設などのセクターは新型コロナウイルスの影響下においても構造的な成長が期待されます。ただし、オフィスなどの一部セクターでは、行動規制強化を受けて賃料の減免や空室率の上昇が見られており、引き続き注意が必要です。

個別銘柄ごとに、価格の方向性に基づき、保有株数の一部または全部にかかるコール・オプションを売却することでカバードコール戦略を構築します。

## ■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

## ポートフォリオについて

(2020.12.15~2021.6.14)

### ■当ファンド

リートα・ファンド（ノンヘッジクラス）とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資しました。リートα・ファンド（ノンヘッジクラス）への投資割合を高位に維持しました。

### ■リートα・ファンド（ノンヘッジクラス）

安定的な配当が見込めて下値抵抗力がある相対的に割安な銘柄を選定し、リーートのバリュエーションやオプション取引価格等を考慮して、リートポートフォリオを構築しました。現物リートポートフォリオ部分については、セクター別で見ると、参考指数であるS & P先進国REIT指数に対して商業施設やホテル／リゾートのウエートを増やしてオーバーウエートとし、産業施設や特殊用途施設などのウエートを引き下げてアンダーウエートとしました。国別で見ると、堅調なファンダメンタルズと安定した配当利回りの見通しを背景に米国やカナダなどのウエートを引き上げ、シンガポールやオーストラリアなどのウエートを引き下げました。

個別銘柄ごとに、価格の方向性に基づき、保有株数の一部または全部にかかるコール・オプションを売却することでカバードコール戦略を構築しました。

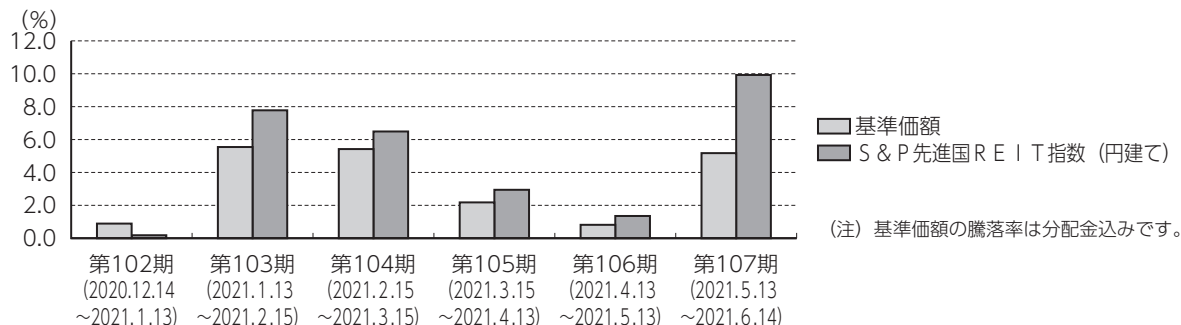
### ■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。当ファンドはカバードコール戦略を構築していますので、オプション取引要因は参考指数との差異の要因に含まれます。



## 分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### 分配原資の内訳（1万口当り）

項目	第102期	第103期	第104期	第105期	第106期	第107期
	2020年12月15日 ~2021年1月13日	2021年1月14日 ~2021年2月15日	2021年2月16日 ~2021年3月15日	2021年3月16日 ~2021年4月13日	2021年4月14日 ~2021年5月13日	2021年5月14日 ~2021年6月14日
当期分配金（税込み）（円）	50	50	50	50	50	50
対基準価額比率（%）	1.30	1.25	1.20	1.18	1.19	1.14
当期の収益（円）	50	50	50	50	50	50
当期の収益以外（円）	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額（円）	1,382	1,392	1,400	1,411	1,423	1,436

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

## ■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	第102期	第103期	第104期	第105期	第106期	第107期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓ 55.21円	✓ 59.81円	✓ 58.14円	✓ 60.70円	✓ 62.66円	✓ 62.82円
(b) 経費控除後の有価証券売却等損益	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(c) 収益調整金	1,366.34	1,366.41	1,366.49	1,366.59	1,366.71	1,366.87
(d) 分配準備積立金	10.93	16.08	25.84	33.90	44.50	57.02
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	1,432.49	1,442.32	1,450.48	1,461.21	1,473.88	1,486.72
(f) 分配金	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	1,382.49	1,392.32	1,400.48	1,411.21	1,423.88	1,436.72

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

引き続き、リートα・ファンド（ノンヘッジクラス）とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資します。また、リートα・ファンド（ノンヘッジクラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

### ■リートα・ファンド（ノンヘッジクラス）

米国の大規模な財政政策のほか、世界的な新型コロナウイルスワクチンの普及などを受け、米国だけでなく欧州などの主要先進国でも景気回復が見られ始めたことが、今後も先進国リート市場を下支えするとみています。一方で、変異型の感染拡大や早期の金融緩和縮小などがリスク材料として挙げられます。また、一部のセクターでは、感染対策の行動制限が解除されつつある中で、賃料の減免や引き下げが依然として見られており、注意が必要です。

個別銘柄ごとに、価格の方向性に基づき、保有株数の一部または全部にかかるコール・オプションを売却することでカバードコール戦略を構築します。

### ■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

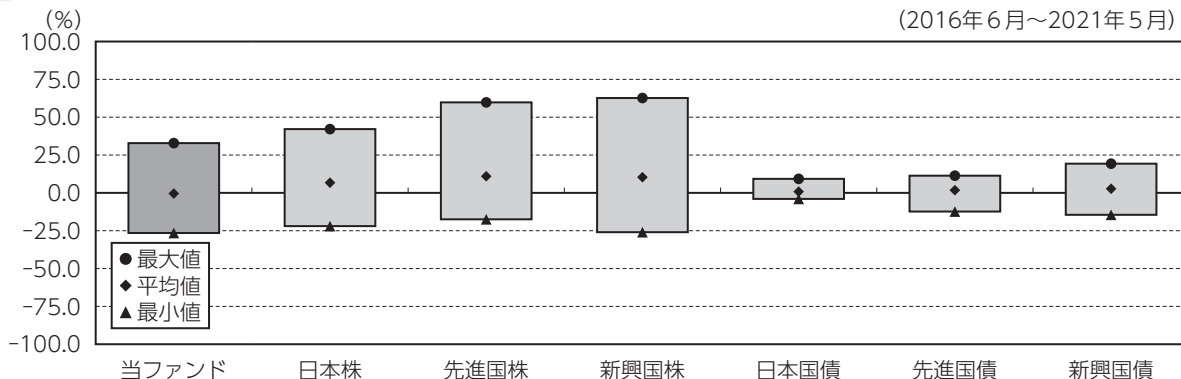


## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／不動産投信（リート）	
信託期間	約10年間（2012年6月27日～2022年6月13日）	
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	当ファンド	イ. ケイマン籍の外国投資信託「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅱ－グローバル・リートα・ファンド（ノンヘッジクラス）」（以下「リートα・ファンド（ノンヘッジクラス）」といいます。）の受益証券（円建） ロ. ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券
	ダイワ・マネースtock・マザーファンド	円建ての債券
当ファンドの運用方法	①主として、リートα・ファンド（ノンヘッジクラス）の受益証券を通じて、リートへの投資とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築し、信託財産の成長をめざします。 ②当ファンドは、リートα・ファンド（ノンヘッジクラス）とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態、リートα・ファンド（ノンヘッジクラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。 ③リートα・ファンド（ノンヘッジクラス）では、為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。	
マザーファンドの運用方法	①円建ての債券を中心に投資し、安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。 ②円建資産への投資にあたっては、残存期間が1年未満、取得時においてA-2格相当以上の債券およびコマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。	
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、継続的な分配を行なうことを目標に、基準価額の水準を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。また、第1計算期末には、収益の分配は行ないません。	



## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	32.9	42.1	59.8	62.7	9.3	11.4	19.3
平均値	-0.4	6.7	11.0	10.3	0.8	1.8	2.7
最小値	-26.5	-22.0	-17.5	-26.0	-4.0	-12.3	-14.5

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

- ①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。
- ②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。
- ③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※上記の騰落率は直近月末から60カ月さかのぼった算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

※資産クラスについて

日本株……………東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株……………MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI国債

先進国債……………FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………J.P.モルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●TOPIXは東証が算出・公表し、指数値、商標など一切の権利は株式会社東証証券取引所が所有しています。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。●NOMURA-BPI国債は、野村証券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村証券株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●J.P.モルガン ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。





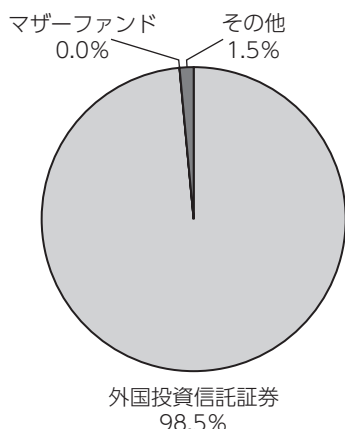
# ファンドデータ

## 当ファンドの組入資産の内容

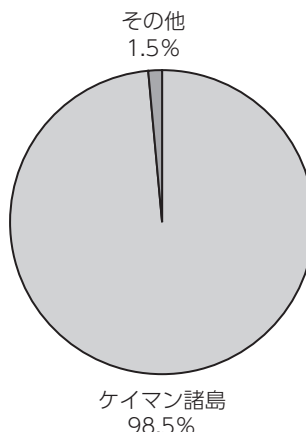
### 組入ファンド等

	比率
リートα・ファンド（ノンヘッジクラス）	98.5%
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	0.0
その他	1.5

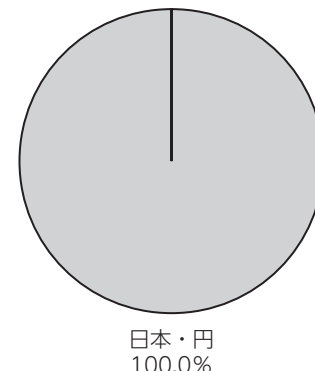
### 資産別配分



### 国別配分



### 通貨別配分



(注1) 上記データは2021年6月14日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

※当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行っています。次ページの「組入上位ファンドの概要」には、組入上位3ファンドまでのファンドの内容を掲載しています。

## 純資産等

項 目	第102期末	第103期末	第104期末	第105期末	第106期末	第107期末
	2021年1月13日	2021年2月15日	2021年3月15日	2021年4月13日	2021年5月13日	2021年6月14日
純資産総額	1,045,533,104円	935,638,306円	969,350,896円	964,390,446円	933,797,352円	968,626,156円
受益権総口数	2,747,766,117口	2,358,975,784口	2,346,517,416口	2,312,087,395口	2,247,218,035口	2,242,076,900口
1万口当り基準価額	3,805円	3,966円	4,131円	4,171円	4,155円	4,320円

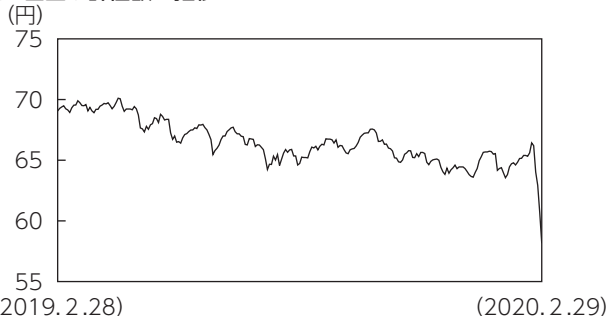
\* 当作成期間（第102期～第107期）中における追加設定元本額は39,630,905円、同解約元本額は652,046,504円です。

\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

## 組入上位ファンドの概要

### ◆クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト (ケイマン) II - グローバル・リートα・ファンド (ノンヘッジクラス) (作成対象期間 2019年3月1日~2020年2月29日)

#### ■ 1口当り評価額の推移



(注) 1口当りの純資産は、分配金(税込み)を再投資したものとみなして計算しています。

#### ■ 1口当りの費用の明細

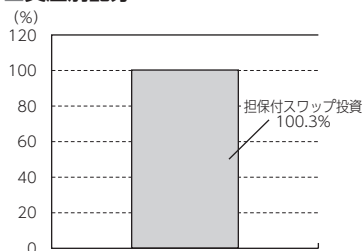
当ファンドの単位口数当りの費用のデータは取得できないため、記載していません。

#### ■ 組入上位銘柄

銘柄名	通貨	比率
GAMING AND LEISURE PROPERTIE	米ドル	4.1%
PROLOGIS INC	米ドル	4.0
OMEGA HEALTHCARE INVESTORS	米ドル	3.8
MID-AMERICA APARTMENT COMM	米ドル	3.6
EQUINIX INC	米ドル	3.6
MEDICAL PROPERTIES TRUST INC	米ドル	3.5
VICI PROPERTIES INC	米ドル	3.5
EQUITY LIFESTYLE PROPERTIES	米ドル	3.4
ALEXANDRIA REAL ESTATE EQUIT	米ドル	3.2
FOUR CORNERS PROPERTY TRUST	米ドル	3.1
組入銘柄数		58銘柄

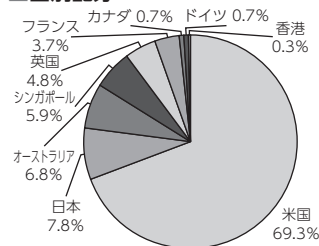
(注) 比率はリートのポートフォリオに対する比率です(※)。

#### ■ 資産別配分



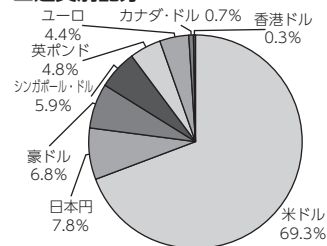
(注) 比率は純資産に対する比率です。

#### ■ 国別配分



(注) 比率はリートのポートフォリオに対する比率です(※)。

#### ■ 通貨別配分



(注) 比率はリートのポートフォリオに対する比率です(※)。

(※) 当外国投資信託では、直接リートへの投資やオプション取引を行わず、担保付スワップ取引を通じて、先進国のリートへの投資とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略の損益を享受します。上位10銘柄、国別配分、通貨別配分は2020/2/27現在のデータです。

\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)をご覧ください。

◆ダイワ・マネースtock・マザーファンド（作成対象期間 2019年12月10日～2020年12月9日）

13ページをご参照ください。

大和アセットマネジメント

---

Daiwa Asset Management